

## 1 学期がんばったこと

3年松組 寺本 ひより

わたしが1学期にがんばったことは、手をあげてはっぴょうすることです。1学期のさいしょは、きんちょうしたり、まちがっていたらいやだなと思ったりして、手をあげてはっぴょうすることができませんでした。答えがぜったいにあることをたしかめてから、手をあげていました。でも、手をあげるのがおそくて、あててもらえませんでした。

6月になったある日先生が、「このけいさんのしかたがわかる人」と言いました。はじめは、ほかの人があたりました。その人が答えおわって、次の人をあてるときに、わたしは、その子にむかって手をはやくあげました。そうしたらその子が、わたしをあててくれました。わたしは、みんなの前で、こくばんをつかってせつめいするのがはじめてだったので、とてもドキドキしました。『だいじょうぶかなあ』と心配になりました。でも、せつめいをはじめてすこししてから、『前でせつめいすると、みんながわかりやすくていいなあ』と思いました。そして、せつめいをどんどんすすめていくと、きんちょうもなくなってきました。

これからは、先生が、「わかる人」「せつめいしてくれる人」ときいたら、手をあげてはっぴょうしていきたいです。次からは、もっとじょうずにせつめいができるようにがんばりたいです。



## 1 学期がんばったこと

3年竹組 伊藤 洵

3年生になってがんばったことは、友だちをたくさんつくることです。新しいクラスになって、はじめて同じクラスになった子がたくさんいました。私は、友だちをたくさんつくるために、遊びにさそったり、話しかけたりしました。そうしたら友だちから、

「いっしょに遊ぼう！」

と、さそってくれました。私は、友だちが少しふえたのかなと思いました。また、同じクラスになったことがあるけれど、あまりしゃべったことがない人にもしゃべりかけました。すると、もっと遊びにさそわれることが多くなりました。私は、この調子でがんばろうと思いました。



今、私には友だちがたくさんいます。また、私は今、先生や友だちのお手伝いもしています。いいことをたくさんして、チューリップにたくさんシールをはりたいです。今、私のチューリップには25まいのシールがあります。これからも、シールと友だちをたくさんふやして、楽しいクラスにしたいです。

もう1つがんばったことは、算数のじゅぎょうです。

私は、算数のまちがいが多かったので、じゅぎょう中、先生の話をよく聞いて、まちがえやすい計算を自主べんきょうノートにふく習してきました。また、プリントやしゅく題の計算は、見なおして、まちがっている問題はすぐに直しました。

これからも、自主べんきょうノートにふく習したり、見なおしたりすることをつづけたいです。

## 1学期にがんばったこと

6年松組 永田 龍生

ぼくが、1学期にがんばったことは、国語の授業です。

6年生になって最初の頃、ぼくには国語の楽しさが分かりませんでした。筆者の主張を読み取る説明文、登場人物の気持ちや、なぜそう行動したのかを見つける物語など。国語では、色々なことをやってきましたが、ぼくは、何を目的として国語で何を学べばよいのか分かりませんでした。

でも、6年生になって、先生のある授業を受けて、ぼくは国語の楽しさを知りました。その授業が、討論会です。討論会というのは、それぞれの立場に立って質問などを受けながら、主張し合う議論のことです。ぼくは、元々自分の考えを言うのがとても好きです。特に討論会では、討論の相手や聴き手から質問が来ます。それに返答をすることによって、自分が伝えたいことを、さらに詳しく知ってもらえます。ぼくは、自分の意見をしっかりと伝えられる場がある国語が、居心地がよく、好きになりました。

そして、最初に言った国語の楽しさ。言葉の言い回し一つで、相手の印象を変えられる。同じ内容でも、聞く人によってとらえ方が変わるなどから、国語力が大事だと思ひ、興味をもち、楽しくなりました。

そして今、この国語力を身につけるために国語をがんばっています。

勉強の楽しさを見つけると、とてもはかどります。2学期も、他の教科の楽しさを、たくさん見つけていきたいです。



## 1 学期がんばったこと

6年竹組 佐藤 凌平

ぼくが1学期がんばったことは、陸上部です。ぼくは、4年生のときからずっと走り高とびにとりくんできました。高くとべるわけでもなかったのですが、ここでなら自分がいい記録を出せると思ったからです。

練習が始まったころは、今まで通りふつうにやっていたのですが、きょう技会の選手決めがそろそろあるという話を聞いて、ぼくは選手になれるかな、と思いました。それから、少しドキドキしながら練習をしていると、ついに選手が発表されました。そのとき、ぼくの名前が呼ばれました。呼ばれるとは思っていなかったのですが、少しうれしさもありましたが、選手になれなかった人の分までがんばらなければいけないなど、いろいろなきんちょう感が生まれてきました。

それからの練習では、ぼくの心の中に、きんちょう感がありました。すると、ウォーミングアップぐらいの高さでもとべなくなりました。それが何日も続いて、今までとべていた高さが急にとべなくなったので、ぼくはふしぎに思いました。

そのころのぼくは、少し選手がいやになりはじめていました。そんな日が続いたある日、担当の先生が

「それぐらいはあるから、だいじょうぶ。」

とってくださったので、少し安心しました。でも、それから、最後の練習までぜんぜんとべないままで、少しとべるようになったかなぐらいで本番をむかえました。

大会の日、ほかのきょう技が終わるにつれて、きんちょうが強くなっていき、走り高とびの番になりました。そんなとき友だちが

「105センチはとぼう。」

とってくれたので、やる気が出てきました。そしてぼくは、105センチをとぶことができました。その高さで終わってしまったけれど、友達がはげましてくれたおかげでとぶことができたので、うれしかったです。このことから、あらためて友達は大切だということが分かりました。

これからも、陸上部での経験を生かして、目標をもってがんばりたいです。

